

中等教育研究開発室年報 第36号 (2023年3月31日発行) 別冊電子版
2022年度 授業実践事例

英語科 高等学校第Ⅱ学年

Lesson 7 iPS Cells —A revolution in tissue engineering—

Revised ELEMENT English Communication II (啓林館)

授業者 藤沢 崇志

(教育研究大会 公開授業)

広島大学附属中・高等学校

高等学校 外国語科（英語） 学習指導案

指導者 藤沢 崇志

- 日時** 令和4年11月26日（土） 第3限 11:40～12:30
- 場所** 第1研修室
- 学年・組** 高等学校Ⅱ年3組42人
- 単元** Lesson 7 iPS Cells – A revolution in tissue engineering –
Revised ELEMENT English Communication II（啓林館）
- 目標**
1. 相手にわかりやすく伝えるために、情報や文章構成を整理したり、相手が理解しやすい言葉に言い換えたりする技能を身に付けている。（知識・技能）
 2. 人物を相手にわかりやすく紹介するために、人物の人柄や功績について、読み取った内容を再構成して伝えることができる。（思考・判断・表現）
 3. 人物を相手にわかりやすく紹介するために、人物の人柄や功績について、読み取った内容を再構成して伝えようとしている。（主体的に学習に取り組む態度）

指導計画（全7時間）

第一次 教科書本文の内容・言語材料の理解 5時間

第二次 読み取った内容の書き換え、発表 2時間（本時2/2）

授業について

探究的な学びを構成する要素として、「習得」「活用」「探究」の3つが挙げられる。外国語学習で育成したい資質・能力のうち、「知識及び技能」を「習得」、「思考力、判断力、表現力等」を「活用」とするならば、これらを場面・状況に応じて適切に選び取り運用する過程を「探究」の一部だと位置付けることができるだろう。外国語学習においては、表現の内容や方法を相手や場面・状況等によって適切に使い分ける作業が欠かせない。そこで行われる主体的な判断や試行錯誤が、生徒を自律的な学習者へと導いていくことになる。新しい学習指導要領には、生徒の学習を後押しするものとして「支援」という文言が明記され、その支援の在り方は学年が上がるにつれ「多くの支援」→「一定の支援」→「支援をほとんど活用しなくても」と様相を変えていく。生徒の学びを支え成長を促すものとして、その時その時に最適な支援とは何か。それを日々模索しながら授業を行っている。

本実践で扱う Lesson 7 は、山中伸弥教授と iPS 細胞を題材にしたものである。専門用語が多く一つひとつを理解するには苦勞を要する場合もある。第一次では、本文の読み取りをしながら登場する用語の言い換えを多く行ってきた。第二次では、本文の内容を踏まえ、相手が理解しやすいように生徒自身が文章を再構成しスピーチとして発表する、ということを試みる。その過程の中で生徒は、教材から、教師から、また他の生徒から、様々な形の「支援」を得てそれを活用していくことになる。それらの支援を利用しながら生徒がどのように探究的な学習を行うのか、そこに注目したい。それと同時に、指導者として場面・状況に応じてどのような支援ができるのかを探っていく。

題目 自律的な英語学習に向けた「一定の支援」の在り方を探る

本時の目標

1. 人物を相手にわかりやすく紹介するために、人物の人柄や功績について、読み取った内容を再構成して伝えることができる。(思考・判断・表現)
2. 人物を相手にわかりやすく紹介するために、人物の人柄や功績について、読み取った内容を再構成し、工夫・改善を加えて伝えようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

本時の評価規準（観点／方法）

1. 人物の人柄や功績を相手にわかりやすく紹介するために、読み取った内容を再構成して伝えている。(思考・判断・表現／観察)
2. 人物の人柄や功績を相手にわかりやすく紹介するために、読み取った内容を再構成し、工夫・改善を加えて伝えようとしている。(主体的に学習に取り組む態度／ワークシート)

本時の学習指導過程

学習内容	学習活動	指導上の留意点
(前時まで) 本文の内容を、場面・状況設定を踏まえて再構成し、書き換える。		
(本時) ・ペアトーク(やりとり)	単語をわかりやすい英語で言い換える。	必要に応じて英語での説明の仕方の例を示し、わかりやすい説明の工夫を意識させる。
・グループ内でのスピーチ、改善点の検討 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 0;">喋る</div>	より良いスピーチにするにはどうしたらよいかを互いに検討する。	内容や形式、スピーチの仕方など、改善点を検討する際の視点を共有する。
・スピーチ原稿の修正 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 0;">磨く</div>	相手からの評価を踏まえ、自分のスピーチ内容に工夫・改善を加える。	聞き手をより引きつけるようなスピーチにするためにという視点を共有する。
・別グループでのスピーチ、相互評価 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 0;">発信する</div>	改善点を意識してスピーチを行い、相互評価する。	改善点が現れたスピーチになるよう促す。
備考		

実践上の留意点

1. 授業説明

本授業では、教科書で学習した人物について第三者に紹介する活動をおこなった。場面設定としては、その人物が栄誉ある賞を受けたとして、その授賞式で生徒が人物紹介のプレゼンターとしてスピーチをする、というものである。その際には、人物の人柄や功績、またエピソードを含めて紹介するという条件を付した。人物は教科書でそれまでに学習した課の中から3名を選び、クラスの生徒を3グループに分けてそれぞれに1名ずつ人物を割り当てた。以前に学習した課の中から題材を選ぶことで、学習済みの教材にあらためて触れさせることもねらいとした。

生徒はスピーチ原稿を前時までに書いており、その構成を考える際にはいくつかの思考ツールを教師より提示し、生徒が構成を検討する際の手がかりとした。教科書にある内容全てを網羅的に原稿に盛り込むのではなく、生徒自身で情報や内容を取捨選択して構成を考え、スピーチ原稿を書き上げるよう指導した。

授業では3～4人のグループ内でまずスピーチをし、聞き手からフィードバックを受けるという活動をおこなった。フィードバックは「内容 (Content)」と「伝え方 (Delivery)」、またそれぞれを「良い点 (Good points)」と「改善点 (Improvements)」に分けて付箋紙にコメントを書き発表者に返す、という手法を取った。発表者は聞き手からフィードバックを受けた上で、自身のスピーチ内容および発表の仕方を振り返り、次のスピーチに活かすという段階を踏んだ。2度目のスピーチはグループを変え、新たな聞き手に対してスピーチをおこなった。スピーチ後は再びフィードバックを受け、最後は生徒自身で自身のスピーチを振り返るという活動をおこなった。

50分の中で、「1回目のスピーチ」「聞き手によるフィードバック①」「改善」「2回目のスピーチ」「聞き手によるフィードバック②」をおこなうという構成だったため、非常に慌ただしい時間設定となった。授業時数に余裕があれば、「1回目のスピーチ」から「改善」までを1時限目とし、「2回目のスピーチ」以降を2時限目とする方が、生徒にとっても学びやすいであろう。また、「改善」のあとに練習の時間を加えることができれば、生徒がより改善点を意識したスピーチをすることができるであろう。また、聞き手からのフィードバックに関して、今回は付箋紙に書いて発表者の手元にある紙に貼るという形をとったが、1人1台端末を使えばこのフィードバックをより効率的かつ効果的におこなえるであろう。具体的には、同時編集できる文書や表等を使う方法が考えられる。ICT機器の特長を有効に活用すれば、生徒の工夫・改善もより加速することが期待できる。

2. 研究協議より

場面設定の中で、聞き手となる対象をもっと明確にした方がよいのではというご指摘をいただいた。「聞き手はその人物についてあまり知らない」という設定は生徒に伝えていたが、年齢層などより明確な設定をおこなった方が、生徒は状況や場面をより具体的にイメージでき、内容や発表の仕方にさらなる工夫を加えることができたであろう。

◆ Write down your friends' feedback after you give the speech.

<i>Good points</i>
<i>Improvements</i>

◆ Rewrite your speech manuscript.

◆ Take some comments from listeners.

Name	Comment

◆ Put the comments from your group members.

	<i>Good points</i>	<i>Improvements</i>
Content		
Delivery		

- ◆ What do you want to improve in your speech? (日本語でOK)

- ◆ Update your speech manuscript.

- ◆ Get some comments from the listeners.

Name	Comments

- ◆ Look back your speech by yourself. (日本語でOK。うまくいったことを中心に)